

令和元年度 磐田市立福田中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力 D:大いに努力

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学ぶ楽しさを実感できる生徒	主体的な学習態度を身につけた生徒の育成を目指し、授業や家庭における学習習慣の定着に努めた。	「進んで友だちや教師に聞いたり自分で調べたりして学習できる」(75%)	B	<p>○全体としては、81%と目標指数を達成しているが、学年により特徴が表れている。3年生は、1学期84%→2学期87%と向上。自らの進路選択を意識し、学習に集中して取り組むようになった結果であると考え。2年生は82%→81%とほぼ横ばいであるのに対して、1年生は79%→72%と下がっている。2学期に入り、内容が難しくなり、苦手意識が強くなった生徒が増えたことが原因と考える。</p> <p>※現在取り組んでいる小テストの内容を、努力すれば点が取れる問題とし、できる喜びを感じ取らせることや学習ボランティアや少人数制による個別指導の充実、学習意欲を掻き立てる導入や課題設定について、研修を通して実践していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・努力の積み重ねが結果につながる小テストへの取組は効果があると思う。 ・小テストを通して、努力が結果となり達成感や自己肯定感、学習意欲の向上につながると思う。 ・それぞれの学年の発達や状況にあった指導を計画的に行うことや、少人数制により早い段階のつまづきに気づき支援することが大切。 ・地域の力は無限大。今後も協力依頼をしてほしい。 ・義務教育とは、一人前の判断力、知識を持たせて社会に送り出すことである。不登校の生徒に対する対策は市全体でも考えるべき。 ・最小限でいいので、自分に合った習慣を決めて取り組むことで習慣化する。(目標決定→実践→評価)
自分の良さを伸ばす生徒	自分の良さを見つけ、自ら伸ばそうとする生徒の育成を目指し、学期ごとにあいさつ賞や福中奨励賞の授与、行事や学期ごとの振り返りにおいて良さを認め合える場を設ける。	「自分には良いところがある」(74%)	B	<p>○1学期78%→学期81%と1学期の取組を2学期につなげ、生徒自身が自らの成長を実感していることがわかる。気持ちの良いあいさつができる生徒を紹介する学年掲示や地道な努力を行っている生徒を表彰することや、学期や行事の振り返りを通して、互いの良さを認める場面を設け、それらを掲示や便りで生徒に紹介することで、自信につながったと考える。また、現在、生徒会であいさつ運動ボランティアを呼びかけ、多くの生徒が自主的に参加している。</p> <p>※小さなことでも前向きな取り組みを見逃さず、認める声かけを丁寧に言うことと、多くの生徒に活躍や成長の場を与えられるよう、教師も生徒も失敗を恐れない指導を意識したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域について関心があるか。」の問いについて、祭典以降の2学期に大きく伸びているが、「祭典参加＝関心がある」とは違う。 ・些細なことであっても認められることが自信につながる。それを見逃さず、すべての生徒に等しく声をかけ、それぞれの生徒の良さを伸ばす指導をお願いしたい。 ・善行表彰や掲示などは生徒の意識向上につながっていると感じる。できるだけ多くの生徒のよさを認める場を作ってほしい。 ・最近、登下校中にあいさつしてくる生徒が増えている気がする。生徒主体の活動が、相手に伝わる良いあいさつにつながっていると感じる。 ・「自分には良いところがある」と言える子が増えることは、学校だけでなく地域を明るくする力になる。 ・本年度成果のあった活動(生徒主体、自治的活動)を継続するとともに、地域の活動(センター祭り・海岸清掃など)にも参加し、貢献できるよう意識を高め、活動の場を広げてほしい。 ・福田中の活動や目指す姿などを地域に届ける手助けをするため、地域団体との連携を図り、学校との橋渡しをしたい。
互いに高め合うために規範意識をもつ生徒	互いに高め合うために、規範意識をもつ生徒の育成を目指し、生徒会(委員会)を中心とした啓蒙活動を実践する。	「学級・学校には互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」(85%)	B	<p>○学期初めの服装点検や朝、下校時の指導などにより、落ち着いた学校生活を送ることができており、92%であった。教師主導による指導だけでなく、委員会が中心となり、黙想や服装の呼びかけ、点検活動が定着し、自分たちの力でよりよい福田中学校を築きたいという思いが形となり始めている。</p> <p>※委員会や中央委員会では、決められた活動を行うだけでなく、常に課題や取組に対する意見交換をし、目指す姿を共有し、次の目標につなげている。集団を育てるためのきめ細かい指導を継続して行いたい。また、保護者のあいさつ運動や懇談会などでの情報共有を通し、家庭や地域と連携していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目で前年度を上回る評価となっていることは、日々の指導の成果である。地域の一員としてありがたく思う。 ・かつての荒れた学校とは様変わり。安心して見ていられる。 ・生徒主体で、より良い学校づくりに向けて取り組んでいることが素晴らしい。このような活動が、「いじめ」などの問題を減少させる近道だと思う。 ・雰囲気の良い学校だと感じている。 ・学年間の統一感の見える掲示物にチームワークを感じた。今後も継続を期待する。

命を大切にし、健康づくりに努める生徒	正しい判断力、心身の健康づくりに努める生徒の育成を目指し、「健康の日」の指導の充実を図る。	「健康10か条を守って生活できた」(90%)	B	<p>○毎月の「健康の日」では、養護教諭が準備した資料とテレビ放送により、すべてのクラスが同時に同じ指導を受け、月末には振り返りを行った。本年度は睡眠に絞って指導し、ポスターなど視覚に訴える取組も実践。その成果もあり93%であった。</p> <p>※来年度も重点目標を決めて取り組むことで焦点化を図ることと、委員会活動の一つとして、生徒の意見を取り入れ、実態把握や取組に生かしたい。また、自転車通学者が多いため、マナーやルールの遵守については、交通安全教室や放送による呼びかけ(現在安全委員長が実施)等、継続的に指導し、生徒の安全意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト前の「ノーテレビ・ノーゲームデー」だけでなく、家族とのコミュニケーションを深めるための「ノーテレビ・ノーゲームデー」も設定できるとよい。(トランプやボードゲームなど家族で楽しむ時間) ・福田地区の残菜が多い事実が驚いた。食の大切さは命につながることを繰り返し指導してほしい。 ・自転車通学者には一旦停止の遵守を指導してほしい。自分の命を自分で守るという意識をしっかりとらせてほしい。(特に1年生の1学期) ・交通安全については、地域でも街頭キャンペーンやマナー向上指導強化の日などあいさつと併せて声掛けをしていく。(地域づくり協議会と生徒会との連携) ・不登校の増加は社会的な問題。個の問題だけでなく、学校全体としてとらえ考えることが大事。 ・不登校の増加については、原因はさまざまであり、生徒に寄り添って一つずつ原因を取り除いていくことが大事である。 ・自分を大切にできる子は人にも思いやりをもち、自分の命も他者の命も大切にできる。そのような生徒に育てるためにも、心身の健康は重要。 ・規則正しい生活、食育、運動→健康な体 長い人生を歩む中で健康こそが大事であることを意識し、本気で取り組んでほしい。 ・朝食や食事のバランス、夜更かしなどは家庭の協力が不可欠。協力体制を整える必要あり。
頼もしい教師	「学びの実感」を味わい、自ら学び続けようとする生徒の育成を目指し、年1回の授業公開を実践し、授業力を高める。	「授業の内容がよく分かる」(75%)	B	<p>○全体としては79%と目標指数を達成しているが、「進んで友だちや先生に聞いたり自分で調べたりして学習している。」の結果と同様に1、2年生では1学期より2学期の方が数値が下がっている(ともに75%以上)。年1回の授業公開は、略案を書き実施したが、その授業についてじっくり検討したり、検証したりする時間がもてなかった。</p> <p>※意欲的な学習態度同様、授業内容がわからなくなると意欲も低下するため、来年度は研修主任による検証授業を行い、職員間での課題や研修テーマを共有し、方向性を確認する。主体的、対話的で深い学びとなるよう、課題設定、課題解決のための手立てについて研修に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことを質問しやすい関係づくり(教師対生徒、生徒間)をつくりたい。 ・スキルを教え込むのではなく、学ぶおもしろさを伝える授業を期待。 ・受け身の授業ではなく、主体的な学びが社会の変化に対応できる力(コミュニケーション力・思考力など)の育成につながる。 ・学ぶ楽しさ同様、困難(苦労)に立ち向かい、乗り越える強さを身につけさせてほしい。乗り越えた後にくる感動やついた力を実感できる活動をお願いしたい。 ・授業力の向上。普段の授業もそうだが、参観会の授業に対する準備が不十分だと感じる。(参観者にも授業の流れがわかるような略案表示など)研修(校内・学府内)を通じて、改善点について話し合いを行う取り組みなどをすべき。 ・地域がどのようなことを支援できるか、学校の活動や目標を共有し協力したい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

地域の方々の中学校に対する熱い思いを感じる御意見を多数いただき、学校の活動への関心の高さや支援して下さる受け皿が広いことなどを実感した。学校として、もっと情報を発信し、地域の思いと生徒をつなげる役割も担っていかねばならないと改めて感じた。生徒が自分の良さを感じ取り、生き生きと生活することが、地域の明るさ(活性化)につながるという言葉に、私たちは福田地区全体の今と未来を任されているという思いをもつことができた。その責任を自覚し、今後も教職員が一丸となって教育活動の充実に努めたい。

- ・御指摘いただいた授業力については、来年度は①研修の時間を増やすこと、②代表者の授業を全職員で参観し、研修する時間を設けること、③学府による教科研修を実施し、学びのつながりについて確認することを計画。
- ・小テストを通して学習習慣の定着と自己肯定感の高揚に努めるため、問題の難易度やテスト前の指導、テスト後の称揚(表彰)など実施方法の見直しを行う。
- ・地域の良さ(誇り)を再確認するため、10月5日～11日までをふるさと週間と設定、計画的に福田の良さを知る場を設ける。(総合的な学習の時間、掲示、放送など)また、その充実のため、地域との連携を密に行う。